

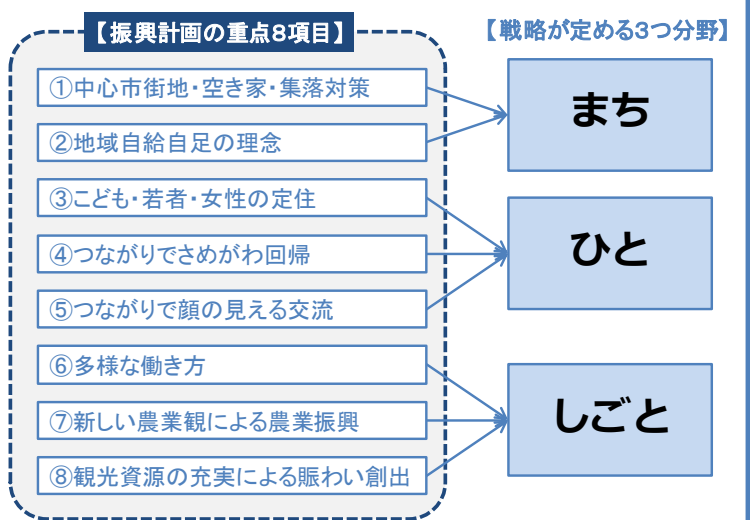
鮫川村人口ビジョンとは
～ 人口の将来展望を村民と共有 ～

鮫川村まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」は、鮫川村における人口の現状を分析し、人口に関する地域住民の認識を共有し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示するものである。

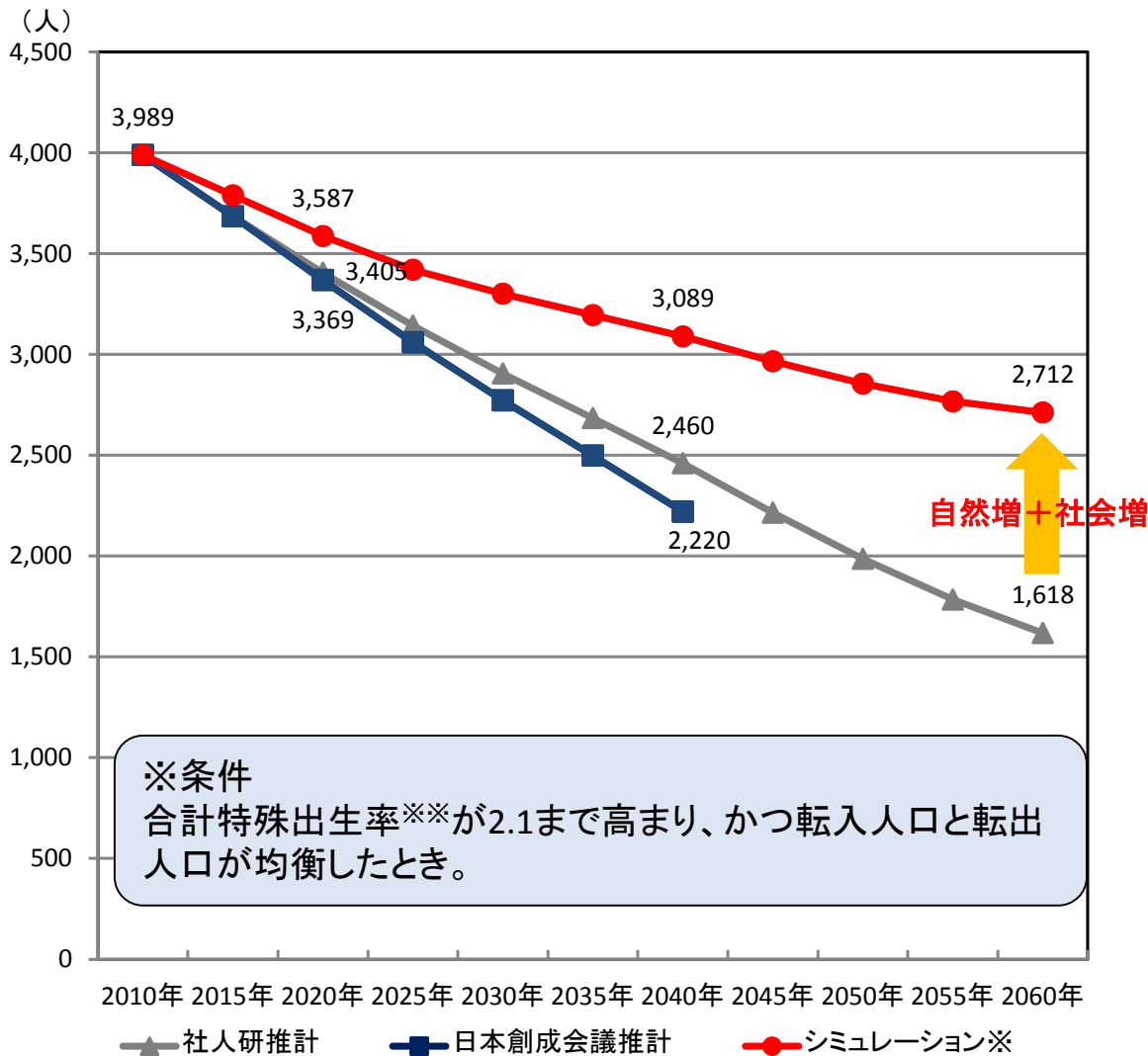
この人口ビジョンは、鮫川村まち・ひと・しごと創生総合戦略において、基本目標と基本的方向の実現に向けて、効果的な施策を企画立案する上で重要な基礎と位置づけるものとする。

振興計画と総合戦略の関係
～ 振興計画の実施計画 ～

鮫川村では平成27年度から36年度までの10年間の計画期間とする第4次鮫川村振興計画を策定したところである。鮫川村総合戦略は、第4次鮫川村振興計画の理念のもとに、実施計画として位置づけ、整合性を図っていく。具体的には総合振興計画に掲げる8項目を総合戦略が定める「まち・ひと・しごと」の分野ごとに目標を定め、平成27年度から31年度までの5年間の期間として取り組んでいくものである。



人口推計



※※合計特殊出生率・・・女性が一生涯に産む子どもの人数。

人口の将来展望(鮫川村がめざす人口)

2020年:3,590人 2040年:3,090人 2060年:2,710人

めざすべき将来の方向

Uターン、Iターンを積極的に受け入れ、転出超過状態を改善する。そのために、受入体制整備と情報発信を強化する。

人口流出のいちばんの原因と考えられている雇用機会を創出する。そのために、農産品や観光資源など地域の強みを活用する。

村のヒト・モノ・カネが集まる機能が弱いため、村の富が村外流出しており、還流する必要がある。そのために、まず村の中心機能を強化する。また子育て環境の充実を図り、人口流出予防と転入拡大をめざす。

基本目標1

ふるさと回帰の推進

基本目標2

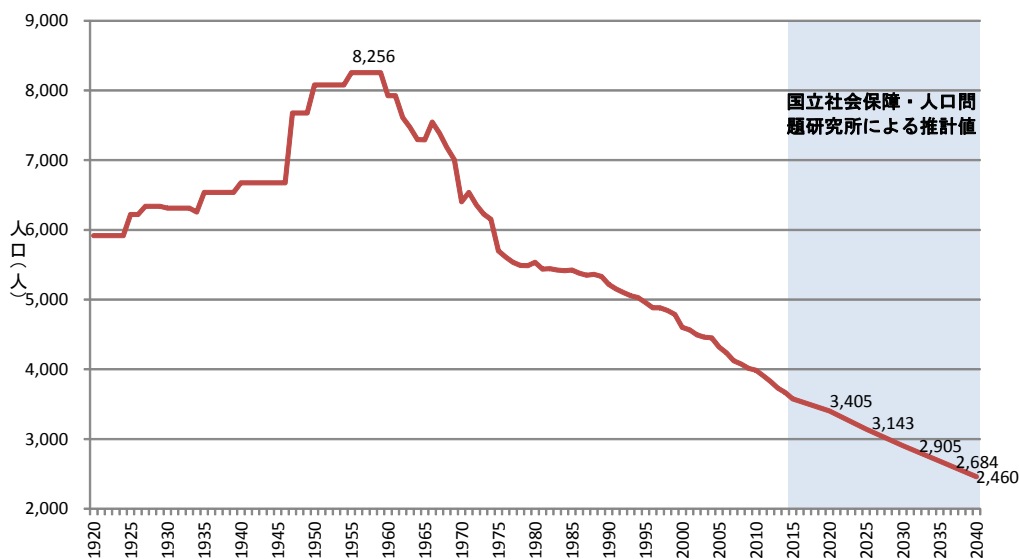
稼ぐ力の創出

基本目標3

暮らしやすく賑わいのあるむらづくり

人口推計

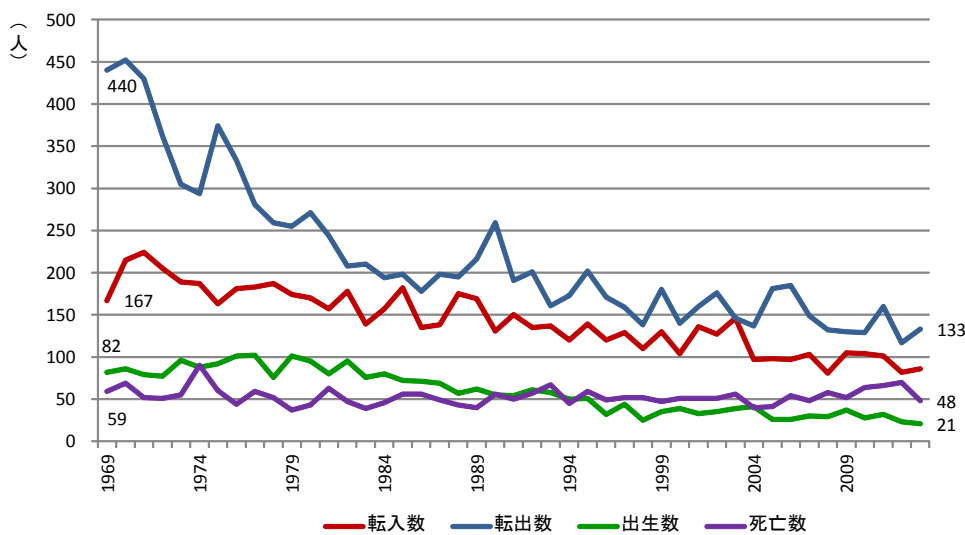
村の総人口は、1960年代の約8,256人をピークに減少し、2040年には2,460人まで減少すると推計される。



出典:住民基本台帳

転入・転出・出生・死亡者数

転出が転入を上回る転出超過状態が続いている。また、出生数が減少する一方、死亡者数は少しずつ増加している。



出典:住民基本台帳

合計特殊出生率

女性が生涯に産む子どもの数は年々減少してきている。人口維持には2.08人必要といわれている。

	1998～2002年	2003～2007年	2008～2012年
鮫川村	1.97	1.67	1.61

出典:厚生労働省

人口推計抜粋

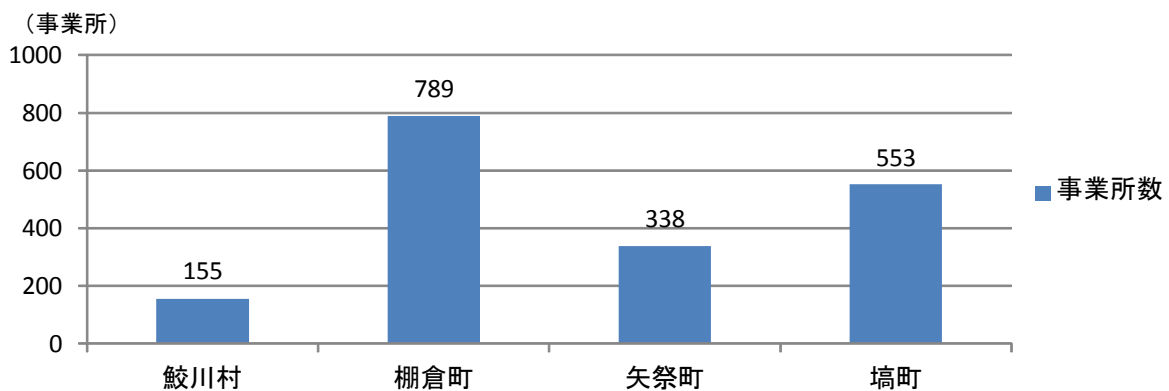
自然増と社会増を図る政策により3,089人まで減少を抑制する可能性あり。特に社会増、転出入者数の均衡がカギ。

単位:人

年	推計	総人口	0-14歳人口		15-64歳人口	65歳以上人口	20-39歳女性人口
			うち0-4歳人口				
2010年	現状値	3,989	487	149	2,249	1,253	315
2040年	社人研推計	2,460	254	77	1,187	1,019	178
	自然増	2,518	315	96	1,184	1,019	173
	自然増+社会増	3,089	482	156	1,600	1,007	280
	全国創生会議推計	2,220	193	55	994	1,032	118

事業所数比較

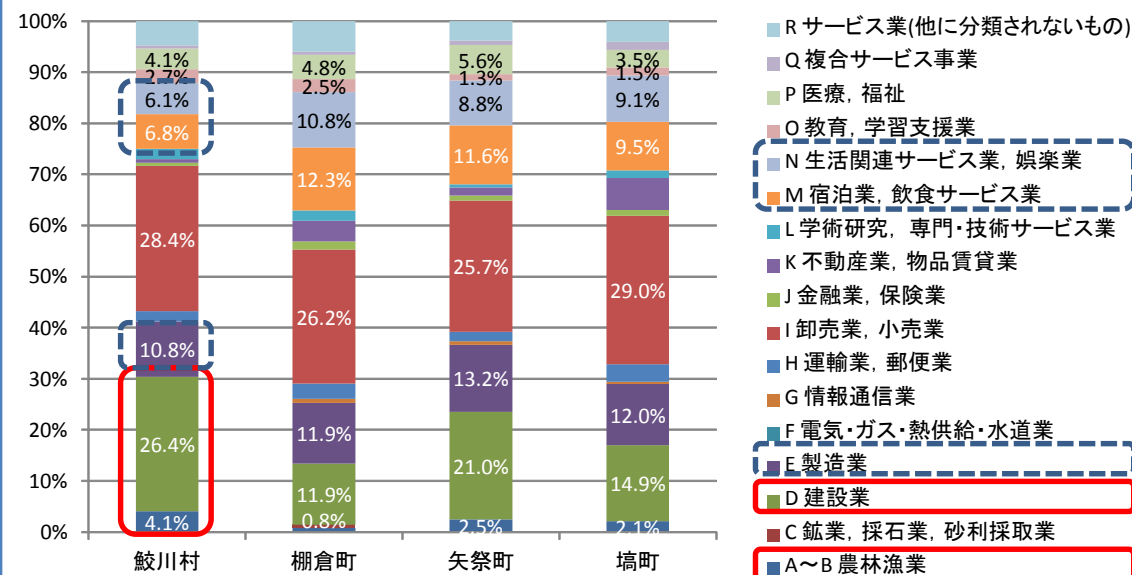
村に立地する事業所は155か所である。郡内では棚倉町、埴町、矢祭町、鮫川村の順で、矢祭町のおよそ半分である。



出典:平成24年経済センサスー活動調査(総務省)

業種別事業所数の割合

村内の事業所は、農林水産・建設業の割合が高く、製造・生活関連サービス、娯楽業、宿泊・飲食サービス業が低い。



注) は郡内でも相対的に割合が高い業種。 は割合が低い業種

出典:平成24年経済センサスー活動調査(総務省)をもとに加工